

青森県

モデル圏域 津軽圏域

誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を目指して

青森県では、津軽圏域における現在までの成果を県内全体に展開するため、各圏域間で開催する協議の場に密着アドバイザーを派遣してグループワークを実施するなど、課題解決方法や好事例等の共有を進めています。

また、津軽圏域では、さらなる関係機関の連携や、ピアサポーター養成の充実など、引き続き精神障害者地域移行支援の促進を進めています。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 病院管理部門関係者の地域移行に対する理解が促進される。	看護部長等に対し地域移行に関する個別の説明を行うとともに、病院実施指導の際に病院管理者へ説明を行うなど、機会をとらえた事業説明を行っている。
2. 地域移行に関わる支援関係者が、事例を共有しながら地域移行支援への理解を深め、取組む意欲をもてる。	12月に広域調整会議を開催することとし、準備を進めている。
3. 関係者による議論の場を継続し、地域移行支援に関わる関係機関のネットワークと支援体制を維持し、リストアップされた対象者の地域移行支援を進める。	これまで協議の場を3回開催している。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況（つづき）

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
4. 各種関連データを活用し、長期入院患者の現状や地域の社会資源等を知る。	平成30年度630調査結果を病院毎に集計して、長期入院患者の現状等について分析を進めている。
5. 市町村の自立支援協議会で地域移行部会の設置に関する意見交換をする。	市町村担当者が保健所主催の協議の場に参加することで、地元における地域移行部会設置の意義・役割について理解を深めている。
6. 精神障がい者ピアサポーターを養成し、サポート体制を含めた活動の場が提供できる。同時に、精神障がい者ピアサポーター養成講座の講師を担うスタッフが養成される。	ピアミーティングを5回、語りなどの活動を2回実施している。

2 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

地域移行に理解のある医療機関や、医療機関等と顔の見える関係を築いている事業所が多く存在し、協議の場における議論、調整を積み重ねることにより、行政、医療、福祉、その他関係機関の連携体制の構築が進んでいる。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
地域移行に関わる支援関係者が、事例を共有しながら地域移行支援への理解を深め、取り組む意欲をもてるようにすることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 研修会を開催して、関係者の理解を図る。 医療機関が組織全体で地域移行への具体的取組を進められるようにする。 これまで地域移行支援を行ってこなかった関係機関に対する普及啓発を図る。 	行政	研修会の開催。県内各圏域で課題解決方法や好事例等の共有を図る。
		医療	病院長の事業理解、医療スタッフの自主研修
		福祉	相談支援事業所等の地域移行支援への理解
		その他関係機関・住民等	地域移行に係る普及啓発への実施・協力
精神病院における長期入院患者の地域移行を進める必要がある。	精神障害者の地域移行支援利用を進めていく。	行政	関係者打合せ会の開催、他圏域との情報共有
		医療	対象者のリストアップ、関係機関との連携による支援の実施
		福祉	医療機関等と連携して、対象者への支援実施
		その他関係機関・住民等	ケア会議、関係者打合せ会参加等による連携

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①協議の場及び地域生活支援広域調整会議の開催	合わせて5回 (昨年度実績)	合わせて6回	地域移行に関わる支援関係者が、地域移行支援の理解を深め取り組む意欲をもてる。
②精神病床における1年以上の長期入院患者数	458名	426名 (32名減)	精神障害者の地域移行が着実に進んでいく。

3 病院（医療機関）との連携状況

- 個別に医療機関の長に対し、事業の進捗状況の説明と協力（対象者のリストアップ、ピアの受け入れ、ピア講座の声掛け、研修参加等）を依頼している。
- 管内精神医療機関の看護部長等に対する事業説明と協力依頼を実施している（対象者のリストアップ、ピアの受入れ、研修参加等）。

4 現時点での課題・悩み

- 精神障害者の支援経験が豊富な相談支援事業所が少なく、地域移行支援サービスの利用が一部の事業所にとどまっている。